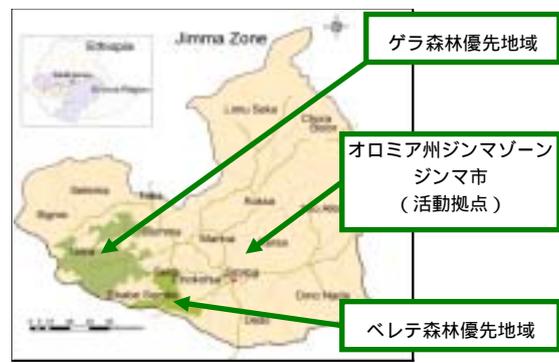


WaBuB PFM News

~ Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management ~

JICA 技術協力プロジェクト
エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2
2002 0 0 7年 2月 15日発行 (第3号)



ベレテ・ゲラへようこそ！

年明けから2月にかけて、プロジェクトに新たなメンバーが続々と加わりました。5月末までの予定でガイドラインや普及計画の作成を支援していただくジンマ大学の講師陣4名の他、FAO(国連食糧農業機関)の萩原雄行短期専門家が着任し、活動が活気づいてきました。また、JICA(国際協力機構)の山本剛職員が、新人研修の一環として1ヶ月間の予定で活動をサポートしています。新メンバーと議論を重ねる中で、これからの WaBuB 普及に向けてのアイデアもいろいろと出てきています。今後の活動にも、どうぞご期待ください！

WaBuB ガイドライン作り開始！！

住民主体による森林管理(WaBuB PFM)をベレテ・ゲラ全体に普及するための準備として、ガイドラインを作成することを、プロジェクト(フェーズ2)1年目の目標の1つとしています。その



ガイドライン作成のためのワークショップを、1月22~26日にかけて実施しました。ゲラおよびシャベソボ郡の行政官に加え、ジンマ大学の講師4名(コンサルタントチーム)や専門家が意見を出し合い、主にフェーズ1で行なった活動をおさらいしながら、どの段階で誰が何をするのか、留意事項は何か、費用はどれくらいかかるか...といった各ステップの手続きをまとめていきました。

今後、限られた人員や予算の中で、誰が中心となって1万7千ヘクタールもの森林優先地域全体へ WaBuB の普及活動を行うのか、いざ実行に移すとすると難しい課題です。今回アイデアとして挙げたのが Development Agent (DA)と呼ばれる村落開発普及員の活用です。エチオピアでは、各村に最低1名の DA が配置されており、主に農業技術に関する普及活動を行っています。日本でも戦後、「生活改良普及員」が農村に配置され、栄養や衛生状態の改善などの普及・働きかけに貢献しました。エチオピアの農村で、住民に最も近い存在である普及員(DA)が、農業分野に限らず WaBuB の普及(参加型森林管理の実践)においても重要な役割を果たし、様々な農村の問題に取り組んでいくための能力向上につなげられないか...と考えています。

また、もう1つの大きな課題が、「WaBuB PFM の持続可能性」です。プロジェクトが目指すのはあくまで森林の保全管理

ですが、森林と密接に関わっている地域住民が、積極的に森林管理活動に取り組もうとする動機付けが無ければ、その持続も普及も困難です。アフアロやチャフェ集落(フェーズ1対象集落)の住民が口にするのが、「WaBuB を結成しても、何も生活面において変化がない...」といった不満です。おそらく今のままでは、WaBuB PFM への参加に、他の集落の住民から賛同を得るのは難しいのではないのでしょうか。住民が「積極的に森林管理に取り組みたい」と思えるような仕組みを広い視野で考え、築いていく必要があります。

ベレテ・ゲラでの研修に向けて

はじめまして。JICA 新入職員研修として、2月より本プロジェクトでお世話になっております山本剛です。3月半ばまでの間、主にベレテ森林においてローカル NGO が実施する生計向上調査への参加や、WaBuB PFM 普及用イラスト冊子の作成を行なう予定です。特に、普及用冊子は、私が主体となってジンマ大学講師(コンサルタント)やイラストレーターと調整し、作業を進めていくことを任されています。短い期間の中で、どう効率的にいいものを仕上げていくか、試行錯誤しながら進めています。

また、現在、ちょうど WaBuB PFM の普及に向けた活動が活発化してきたところで、プロジェクトの各関係者と意見を出し合いながら構想を練っています。どの技術協力事業においても課題の1つとなる「普及」という大きな課題に向けて、プロジェクト現場がどう考え、様々な調整・協議をし、実際の展開に向けた取り組みを行っていくのか...、出来る限り現場の視点に立って共に考えてみたいと思っています。研修終了後に実のある報告ができるよう、そしてその後の JICA 職員としての業務に活かしていけるよう、精一杯がんばりたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。(山本 剛)

WaBuB は、現地オロモ語で(地域住民により組織される)森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

ゲラ NOW 住民の本音は？

萩原短期専門家の着任に伴い、1月16日にアフアロ集落を訪れ、WaBuB 代表者へのインタビューを行いました。WaBuB を結成するプロセスや、その後の森林保全への取り組みに加え「今の活動に満足していますか？」「この WaBuB の取り組みを他の集落に普及したいですか？」といった質問を投げかけると、「森林管理契約を結んでも、何も生活に変化は無い」「他の集落に WaBuB の結成を勧めるべきか...わからない」と、住民達の本音がぼつぼつと出てきました。



アフアロ代表者へのインタビュー

確かに、これまでもアフアロの住民はコーヒーの保育・収穫を通して森を伝統的に管理してきており、契約によって、森林優先地域内へ住むことが正式に認められたとはいえ、さほど生計への変化はありません。WaBuB を結成し、森林管理契約を結んだことにより、森の利用における義務や規則が定められ、住民にとっては面倒な事が増えただけと思われても仕方が無いかもしれません。WaBuB による参加型森林管理が広く普及し根付いていくためには、住民が、森を守ることにより得られる利益について考え、「森を守る＝生活がよくなる(収入があがる)」という方程式の答えを見つけることが必要となります。そのためのアイデアを、今、プロジェクトチーム内で議論しているところです。次号では、そのアイデアの一部をご紹介しますと思います。

ベレテ NOW NGO による生計向上調査



フェーズ1で WaBuB を組織化したチャフェ集落と、その周辺 3 集落において、今月中旬から住民の生計向上に必要なサポート活動を提案するための情報収集・調査

を、NGOが実施します。ベレテ森林エリアでは、ゲラに比べコーヒーの収穫による収入(森からの収入)が少なく、家の周りに開墾された小規模な農地からの生産が、家計の重要な収入源の一つになっています。このため、収入を増やすために、森林エリア内への農地の拡大が心配されています。プロジェクトでは、既存の農地の生産性を上げるためのサポートや、アグロ・フォレストリーと呼ばれる、農作物と樹木を組み合わせた土地利用を紹介し、農業改善により森林内への農地拡大を抑える試みを行なう予定です。

ベレテ・ゲラ森林の可能性

仕事を受け、これは大変なプロジェクトだと不安がよぎった。しかし、資料を見て、このプロジェクトは可能性に溢れていると思った。普通、林業プロジェクトでは売るモノが見つからないのに、此処には、天然コーヒーがある。これを使わない手はないと思った。現在検討中の、WaBuB とオーガニック・フェアトレード認証獲得のお見合いが吉とでるか、全ては政府職員のやる気に掛かっているが、そこが見えないのが、専門家の苦勞の種となるだろう。(短期専門家 萩原雄行・国連食糧農業機関所属)

ベレテ・ゲラの有用樹種 Bunna (*Coffea arabica*)



天然コーヒーの実

ベレテ・ゲラで最も代表的な林産物といえば、間違いなくブンナ(エチオピアでのコーヒーの呼称)でしょう。特に、ゲラの周辺はアラビカ種の本産地と言い伝えられており、現在でも天然コーヒーの木(プランテーションのように人の手によって植えられたのではなく、森の中に自生していて、下草刈など、最低限の人による管理が行われている)が多く見られます。

ゲラのアフアロ集落の場合、収穫期(10 - 1月頃)になると、アフアロ住民(45世帯)に加え、他の村から約200世帯の人々(昔アフアロに住んでいた先祖からコーヒーの木を相続した人や出稼ぎ労働者として集まる人など)がやって来て森の中に簡易住居を建て、コーヒーの収穫を行います。

収穫されたコーヒーは、その後の加工の仕方によって、主にフレッシュ・コーヒーとドライ・コーヒーに大別されます。フレッシュ・コーヒーは、専用の工場で収穫したコーヒーの実から果肉を除去し、水洗いをしてから乾燥・脱穀します。摘み取ってからのいかに早くこの果肉除去と水洗いを行うかにより、コーヒーの品質が大きく左右されます。ドライ・コーヒーは、摘み取った果実をそのまま天日干しし、乾燥させた後に、コーヒー工場まで運び、工場で脱穀・精選されます。フレッシュ・コーヒーに比べると少し売値は落ちますが、収穫後の過程をさほど急ぐ必要がなく、また乾燥させた状態で家の納屋で保存し、コーヒーの値段が上がったところに出荷することもできます。



果肉を除去したフレッシュ・コーヒーの水洗い作業



水洗い後の天日乾燥

アフアロ集落の人々は、近くにフレッシュ・コーヒーの洗浄・精選工場がないので、主にドライ・コーヒーを生産し、約20キロ離れたチラという町まで、馬やロバでコーヒーを運んでいます。一頭当たり、一度に100kg程度のコーヒーを運ぶことができます。



軒先で天日乾燥されるドライ・コーヒー

3月中旬までの主な活動予定:

- 2/14-16: シャベソンボ郡(ベレテ森林)の村落開発普及員を対象とした WaBuB PFM ガイドライン紹介ワークショップ
- 2/13-27: ローカル NGO による現地調査(対象:ベレテ森林メティ・ジガ集落、生計向上支援活動立案に向けた現況調査)
- 2/23: 萩原短期専門家(参加型森林管理・普及戦略)離任
- 3/4-11: ケニア国における Farmers Field School の取り組みを視察

発行元:ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2 ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちしております。

E-mail: belete-gera@ethionet.et (担当:西村、吉倉)

URL: <http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/>